

愛娘への手紙

2020年
リリース

— 貢姫宛て鍋島直正書簡集 —

10代佐賀藩主 鍋島直正(閑叟)公が長女貢姫に宛てた手紙196通をまとめた資料集です。
これまでの「名君」のイメージとは異なる姿。自ら筆をとり、自らの言葉で綴った父の情愛。
つい誰かに手紙を書きたくなる一冊です。

筆づかいや料紙がわかる
カラー写真付き



親しみやすい現代語訳

人名や地名等には注釈付き

621
ページ

直正公自筆の
くずし字を活字化

- 本 編(621ページ) 手紙すべてのカラー写真・翻刻文・現代語訳・語釈
- 附録編(77ページ) 内容一覧・系図・年表・解説など
- A4版 上製本 フルカラー 箱入り
- 公益財団法人鍋島報効会 編集・発行

25,000円(税込)



10代佐賀藩主
鍋島直正公(閑叟)

天保元年(1830)17歳で藩主となり、財務・教育・軍事・医療などの分野で藩政を刷新。西洋の科学技術を援用した軍事力を背景に佐賀藩を雄藩となした「名君」と謳われますが、素の人物像はこれまであまり知られていませんでした。



公益財団法人鍋島報効会所蔵
貢姫宛て鍋島直正書簡

父 鍋島直正公から受け取った自筆の手紙を、長女の貢姫が大切に保存していた191通が残されています。このほか貢姫の住む江戸屋敷にいた老女らへの5通(個人蔵)を含めると、手紙の期間は嘉永5年(1852)～慶応2年(1866)の14年間に及びます。直正公が自らの言葉を自筆で書いた手紙の内容はもちろん、料紙には、草花や風景が刷り表された絵巻紙が数多く用いられており、「愛娘への手紙」らしい直正公の心遣いが感じられます。



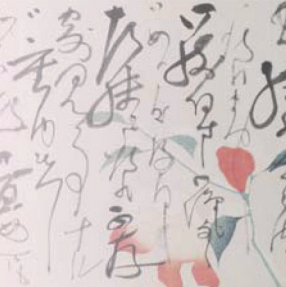
直正公の長女
貢姫(松平慈貞院)

天保10年(1839)、鍋島直正公の第一子として佐賀城で誕生。7歳で江戸に移り、盛姫(直正の正室)らの養育を受けました。17歳で川越藩主松平直侯公に嫁ぎましたが、6年後に死別し、慈貞院(じていゐん)と名乗りしました。

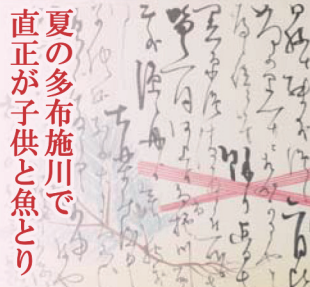
直正公の人となりが見られた196通の手紙。一その中には、こんな内容も…

貢姫は十七歳で川越藩主松平直侯に嫁いだ。川越藩邸と佐賀藩邸は隣同士。直正公が江戸に参勤した折には、江戸の藩邸間でも手紙や贈り物がやりとりされた。

お隣に住む貢姫から届いたお重のお礼
思いも寄らず、見事な御重を届けてくれ、すぐ昼飯に食べましたが、また残しておき、夜食にも食べようと楽しみにしています。この品は大変粗末なものです。御重のお礼までに差し上げます。

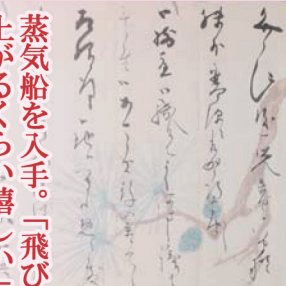


夏の多布施川で直正が子供と魚とり
江戸は今年の暑さはいかがですか。佐賀は例年よりも暑く、ここ一兩日は特に暑い。ため(来月)の六月頃は暑くなるだろうかと思ひやられる程です。一昨日は皆揃って川上(佐賀市大和町)から多布施川筋周辺を納涼の舟で遊覧し、魚獲りなどをして大変楽しく過ごしました。子供たちは特に大喜びで賑やかなものでした。鮎や鰻(はや)がたくさん獲れ、また鰻も大漁でした。

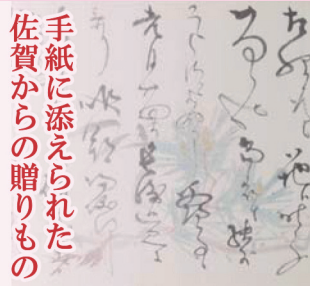


父が注文した蒸気船が(長崎に)届き、飛び上がるくらい嬉しかった。乗船時に、船長の女房が色々お話をしてくれました。二十四歳とのこと、目は猫の目のように、鼻は高く髪は赤毛ですが、色は白くかなりの美人。よほど父に惚れたのでしょ

蒸気船を入手。「飛び上がるくらい嬉しい」
父が注文した蒸気船が(長崎に)届き、飛び上がるくらい嬉しかった。乗船時に、船長の女房が色々お話をしてくれました。二十四歳とのこと、目は猫の目のように、鼻は高く髪は赤毛ですが、色は白くかなりの美人。よほど父に惚れたのでしょ

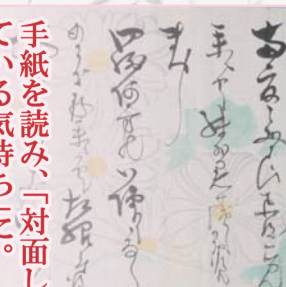


手紙に添えられた佐賀からの贈りもの
父は長崎へ巡見に出かけ、昨日(佐賀に)帰城しました。今回は伊万里から蒸気船に乗り、順風で天気にも恵まれました。伊万里、大河内や武雄なども巡って楽しみました。この焼き物は血山で手に入れたので送ります。みかんは鍋島茂義(武雄)の庭で採れたもので送ります。磁器や武雄のミカンなど佐賀の品々を江戸の貢姫に送っているように様々な贈り物を伴っていることが分かる手紙も多い。

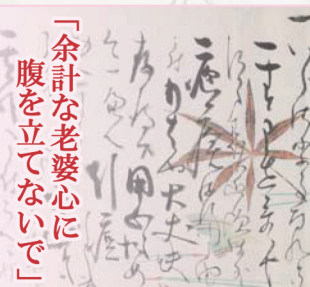


貢姫は文久三年から約二年半、川越城に住んだ。手紙をもらい対面している気持で読んだ。川越は良い所と、見ず知らずの土地で過ごす貢姫を励ました。

手紙を読み、「対面している気持ち」に。
お手紙で詳しく伝えてくださり、対面しているかのようないきさつで何度読み返して嬉しく思いました。川越は江戸の近くで大変よいことと羨ましいです。下関は大騒動で気の毒なことです。佐賀は今年は大変な暑さで大いに困っています。

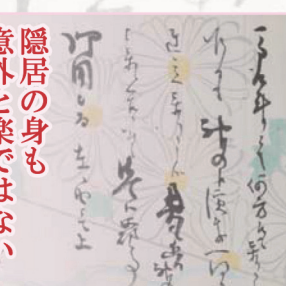


「余計な老婆心に腹を立てないで」
余計なことですが一言だけお伝えします。江戸表では近頃は特に抱瘡(天然痘)が流行しているそうですから、もう大丈夫とは思いますが、用心のためもう一度引痘(種痘)の接種された方が安心です。ご承知ならば、伊東玄朴に言って植えてもらって下さい。本当に父の余計な老婆心と思われるでしょうが、遠く離れて心配なため一言お伝えします。決して腹などお立てにならないでください。

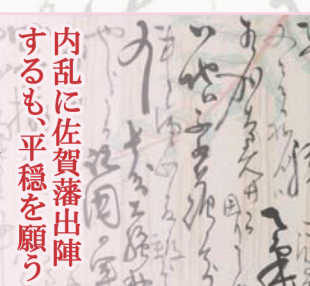


文久元年に直正が四十八歳で隠居した後も手紙は続けた。この手紙では「隠居も案ではない」とこぼしている。

隠居の身も意外と案ではない
父は至って健康で毎日のように馬で乗り回っています。隠居の身ですから(供の者も)簡易で、馬取りだけの外出です。上京の命を受けましたので準備しています。隠居の身は案なものと思っています。したが、実に忙しいもので。將軍の江戸出立が分かります。第内々に知らせして下さい。



内乱に佐賀藩出陣するも、平穩を願う
また長州大騒動が起こるよう、諸藩の軍勢がこぞって出陣し、公方様(徳川家茂)も広島まで御出馬とのことで、佐賀藩の軍勢も近日より繰り出す予定です。どのようになるのでしょうか。また今回も話だけで終わるのではと思われ。とにかく平穩になって欲しいとはかり願っています。



内容のサンプル等をweb上でご覧頂けます。「徴古館 図書」で検索、または左のQRコードをカメラで読み取ってアクセスしてください。

<http://www.nabeshima.or.jp/main/4738.html>

お問い合わせ

お問合せ・ご注文は、お電話・メール等で受け付けています(郵送可/送料別途)。
0952-23-4200
公益財団法人 鍋島報効会(徴古館)



徴古館
The Museum CHOKOKAN
NABESHIMA

〒840-0831 佐賀市松原2丁目5-22
info@nabeshima.or.jp
<http://www.nabeshima.or.jp>
9:30-18:00
土・日・祝、お盆・年末年始
(展覧会開催期間中は土曜日も開館)

WEBページ